

## ○三陸北部森林管理署の「採材現地検討会」に出席しました。

青森事務所では毎年、森林管理署等の採材検討会に参加し、技術指導や情報提供などを行うことで、国有林材を円滑・効果的に活用するよう努めています。令和4年10月7日（金）に岩手県宮古市の鬼米内沢（乙）国有林で開催された「令和4年度 採材現地検討会」に、青森事務所から2名出席してきました。

当日は肌寒い曇り空のなか、林業関係団体や県・市町村担当者、署管内の林業事業体など総勢60名を超える参加を得て開催され、今回の採材検討会ではカラマツと広葉樹の採材について検討を行いました。三陸北部署長の挨拶後、各地域における販売価格など東北の需要動向に関して青森事務所から説明、岩手県森林組合連合会の担当者からは県内の木材市況や現在の需要動向、スギ、カラマツ及び広葉樹ごとの引き合い状況などに関して情報提供がありました。続いて、署の担当者から事業概要、採材指示内容等について説明があり、その後、参加者が5班に分かれ、カラマツ1本と広葉樹オノオレカンバ1本について採材方法の検討を行いました。各班が検討した結果を発表し、一般材や合板材として許容される限度など意見交換が行われ、販売する側の（株）ウッテイかわい社長からは採材に際して留意すべき点などアドバイスをいただくとともに、岩手県森連の担当者からはオノオレカンバほか広葉樹の有利販売等に関して説明いただいたところです。続いて、署の担当者から iPad アプリ「AI丸太検知くん」の紹介・実演が行われました。これは積まれた丸太をPCタブレットなどの端末によって写真撮影するだけで、本数や材積を計測できるものです。

最後に青森事務所から、スギ等針葉樹の一般材、合板材の4m採材の推進や適切な仕訳の徹底、作業日報の電子管理によってボトルネックの解消を行う「生産性向上の取組」に関して協力をお願いするとともに、労働災害の防止に努めるよう安全について講評させていただき、採材検討会を終了しました。

青森事務所では今後も採材検討会や労働災害防止協議会へ積極的に参加し、国有林材の有効な利用と労働安全に貢献して参りたいと考えています。



（カラマツの採材検討）



（オノオレカンバの採材検討）